

講座の仕組み・次年度カリキュラム（案）

淀川管内河川レンジャー 講座研修実行委員会

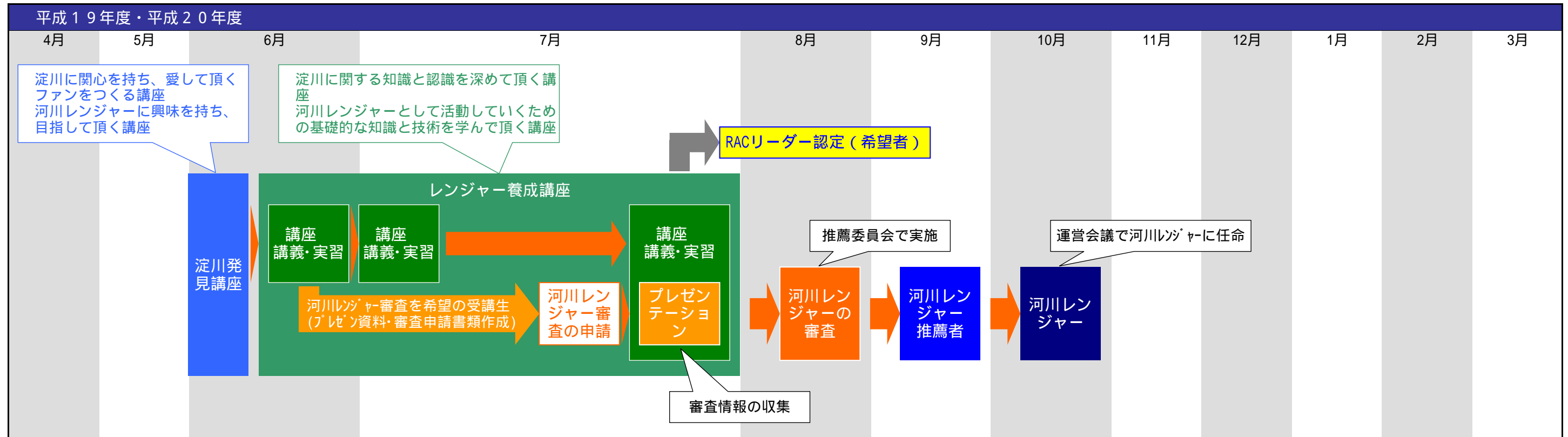
今年度までの講座の仕組み

講座は、一般（満18歳以上の淀川流域在住）を対象とした淀川発見講座（1日）、同講座の修了者を対象としたレンジャー養成講座（3日）の2部構成となっている。

レンジャー養成講座は、河川レンジャーを目指す人（審査を希望する人）を優先して受講して頂いており、河川レンジャーの人材を確保することが大きな目的である。

講座の受講は、河川レンジャーになるための唯一の方法であり、レンジャー養成講座の河川レンジャーとしてやりたい活動の発表でプレゼンテーションを行い、講座の全ての科目を受講することが必須であり、河川レンジャーの審査（再審査を含む）を受けるための要件である。

講座は、「RACリーダー養成講座（川の初級指導者育成講座）」のカリキュラムにも対応させており、講座を修了された希望者（全科目受講）には、川での体験活動における日本で唯一の資格である「RACリーダー（川の初級指導者）」に認定されるシステムを採用している。



現状の課題

レンジャー養成講座は、3日に渡って開催する講座を一度に全てを受講しなければならないため、受講しづらい。

盛り沢山の講義・実習を限られた日数で実施しているため、1日当たりの受講時間が長く、受講生の負担が大きい。なお、アンケート結果からは、科目数を減らすことは望まれていない。

3日間という短期間のレンジャー養成講座において、活動経験の無い人や浅い人などの初心者には河川レンジャーとして活動していくうえでの実践力を養うことは困難である。また、レンジャー養成講座は、カリキュラムに河川レンジャー希望の受講者の審査情報を収集するプレゼンテーション（河川レンジャーとしてやりたい活動の発表）を取り入れていることもあり、事実上、レンジャー選抜講座となっている。

今後の期待

講座は、淀川との関わりや河川レンジャーになるきっかけとなっているものの、講座後、河川レンジャーになりたかった人や興味を持たれた人がその意欲を持続し、河川レンジャーとの関わりを継続することができない。このため、講座には、受講生と河川レンジャーとつながりが持てる仕組みが加わることが望まれる。

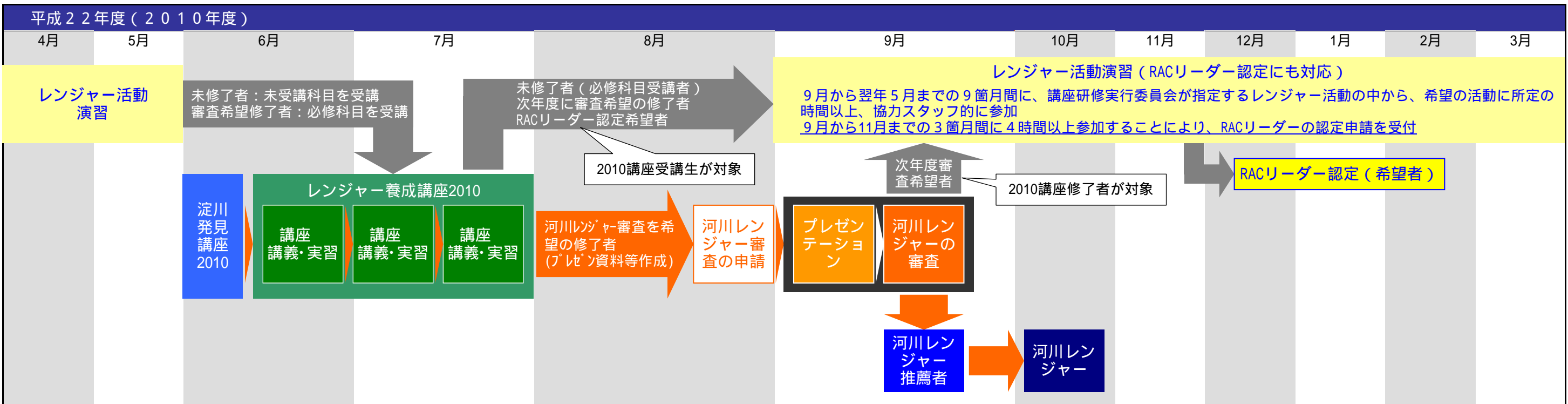
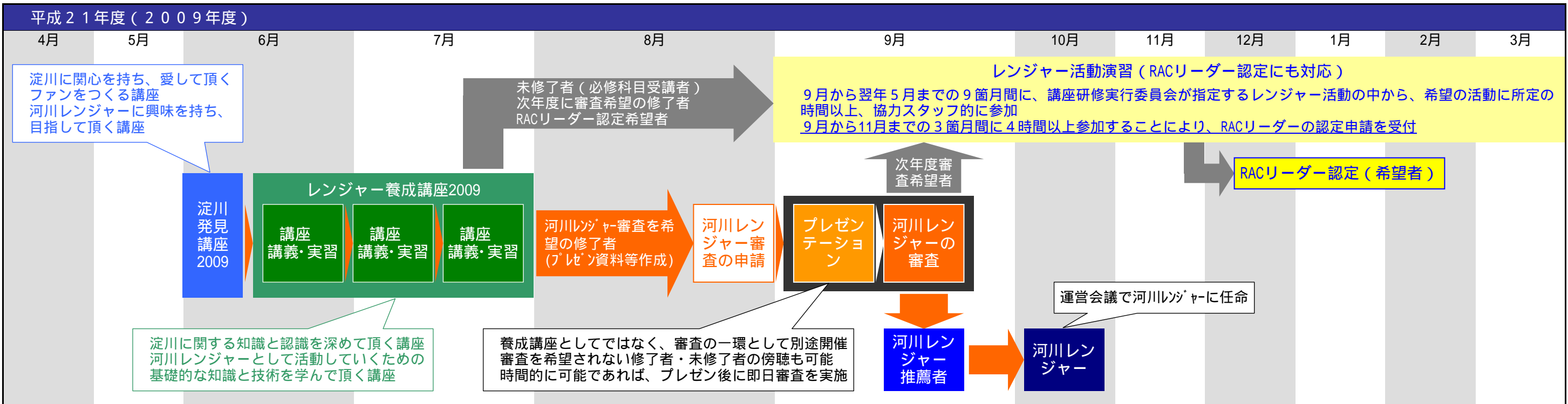
次年度以降の講座の仕組み

講座をきっかけとして、受講生と河川レンジャーがつながりを持ち、河川レンジャーを養成できるよう、レンジャー活動に参加して、現役の河川レンジャーからノウハウを学ぶ仕組みを加える。

河川レンジャーを目指しているものの全ての科目を受講できなかった受講生、活動経験を積んでから河川レンジャーを目指したい受講生、さらに河川レンジャーの審査に再チャレンジしたい受講生など、意欲のある受講生に対応できるよう、次年度の講座までに所定のレンジャー活動演習に参加し、次年度のレンジャー養成講座で所定の科目を受講することにより、次年度の河川レンジャー審査を受けられるようにする。

プレゼンテーション（河川レンジャーとしてやりたい活動の発表）は、レンジャー養成講座から分離し、審査の一環として河川レンジャー希望者を対象に別途開催する。また、これにより、レンジャー養成講座の1日当たりの受講時間の短縮を図る。

2009講座 修了者	審査の申請・プレゼンテーションを行うことにより、2009年度の河川レンジャー審査が受審可能 2009年度に受審して河川レンジャーに推薦されなかった場合は、レンジャー活動演習の参加と2010養成講座の必修科目受講により、2010年度の河川レンジャー審査が受審可能（2011年度を受審は不可） 2009年度に受審しない場合は、レンジャー活動演習の参加と2010養成講座の必修科目受講により、2010年度に河川レンジャー審査が受審可能（2011年度を受審は不可） 9月～11月の期間にレンジャー活動演習へ5時間以上参加することにより、RACリーダーの認定が可能	2009講座 未修了者	2009講座の必修科目を受講されている場合は、レンジャー活動演習の参加と2010養成講座で未受講科目を受講することにより、講座の修了者として認定 上記の方法で修了された場合は、審査の申請・プレゼンテーションを行うことにより、2010年度の河川レンジャー審査が受審可能（2011年度を受審は不可） 上記の方法で修了された場合は、2010講座修了生とともに、RACリーダーの認定が可能 2009講座の必修科目を受講されていない場合は、改めて次年度以降の講座を受講
---------------	--	----------------	--



次年度のカリキュラム（案）

淀川発見講座 （6月上旬開催）

科目	時間	講師（敬称略）
開講式	9:30～9:40（10分）	
淀川の魅力	9:40～10:40（1時間）	宮本 博司（元淀川河川事務所長）
川という自然	10:50～11:50（1時間）	河合 典彦（淀川環境委員会 水域環境部会長）
昼休み	11:50～12:50（1時間）	
淀川のなりたち	12:50～13:50（1時間）	大澤 研一（大阪歴史博物館 学芸員）
淀川探訪（屋外歴史ウォーキング）	14:00～16:00（2時間）	大澤 研一（大阪歴史博物館 学芸員） 八木 滋（大阪歴史博物館 学芸員）
淀川と河川レンジャー	16:15～16:45（30分）	松岡 徹（淀川管内センター河川レンジャー）
閉講式	16:45～17:00（15分）	レンジャー養成講座の案内 河川レンジャー審査の説明 RACリーダーの説明

RACリーダー養成講座との対応

講座科目	RAC科目							
	川に学ぶ体験活動の理念	川という自然の理解	川と人、社会、文化の関わり	安全対策について	川に学ぶ体験活動の基礎技術	対象となる参加者のことを知る	川に学ぶ体験活動の指導法	プログラム作りの基礎知識
	講義1時間	講義1時間 実習2時間	講義1時間 実習2時間	講義1時間 実習3時間	講義1時間 実習2時間	講義1時間 実習1時間	講義1時間 実習3時間	講義1時間
淀川発見講座								
淀川の魅力（1時間）								
川という自然（1時間）								
淀川のなりたち（1時間）								
淀川探訪（屋外歴史ウォーキング）（2時間）								
淀川と河川レンジャー（30分）								
レンジャー養成講座								
河川レンジャーへの理解（1時間）								
水と生活（1時間）								
川に学ぶ体験活動の理念（1時間）								
水防とは（1時間）								
淀川の自然（2時間）								
水辺の安全	講義（1時間）							
	実習（3時間）							
活動計画づくりの基礎知識と実践（3時間）								
河川のルールと利用マナー（2時間）								
これからの淀川（1時間）								
河川レンジャーにチャレンジ（4時間）								

レンジャー養成講座 < 講座 > （6月下旬開催）

科目	時間	講師（敬称略）
開講式	9:40～9:50（10分）	淀川河川事務所長又は実行委員長の挨拶
河川レンジャーへの理解	9:50～10:50（1時間）	（淀川管内河川レンジャー）
水と生活	11:00～12:00（1時間）	大槻 均（元大阪府 企画調整部 水資源監）
昼休み	12:00～13:00（1時間）	
川に学ぶ体験活動の理念	13:00～14:00（1時間）	斉藤 隆（NPO法人 川に学ぶ体験活動協議会 事務局長）
水防とは	講義	14:10～15:10（1時間）
	実習	14:25～16:25（1時間）
閉会	16:25～16:30（5分）	裕永 正光（元淀川左岸水防事務組合 収入役）

レンジャー養成講座 < 講座 > （7月上中旬開催）

科目	時間	講師（敬称略）	
集合（近鉄新祝園駅前ロータリー）	9:00～9:15		
開会	9:25～9:30（5分）		
淀川の自然	9:45～11:45（2時間）	河合 典彦（淀川環境委員会 水域環境部会長）	1年目必修
昼休み	12:00～12:45（45分）		
水辺の安全	講義	12:45～13:45（1時間）	宇山 昭彦（レスキュー3 インストラクター）
	実習	14:15～17:15（3時間）	
閉会	17:45～17:50（5分）		
解散（近鉄新祝園駅前ロータリー）	18:00		

流水に入っただけの実習が困難な受講生は、それ以外の陸上や浅瀬での説明や実技等に参加していない場合、未受講とみなす。また、体調不良等により、受講が困難な場合も未受講とみなす。

レンジャー養成講座 < 講座 > （7月中下旬開催）

科目	時間	講師（敬称略）	
開会	9:30～9:35（5分）		
活動計画づくりの基礎知識と実践	9:35～12:35（3時間）	寺川 裕子（NPO法人 里山倶楽部 理事）	1年目必修
昼休み	12:35～13:35（1時間）		
河川のルールと利用マナー	13:35～15:05（1.5時間）	井村 誠之（元近畿地方整備局 水政課長）	2年目必修
これからの淀川	15:15～16:15（1時間）	小俣 篤（淀川河川事務所長）	2年目必修
閉講式	16:15～16:40（25分）	修了証書の授与 河川レンジャー審査申請の説明 レンジャー活動演習の説明	

レンジャー活動演習（RACリーダー認定希望者対応） （9月～11月）

科目	時間	講師（敬称略）
河川レンジャーにチャレンジ	（4時間）	（淀川管内河川レンジャー）

次年度のカリキュラム（案）

1．変更科目について

(1) 淀川発見講座

淀川と河川レンジャー

今年度の「河川レンジャーとは」は、受講生に河川レンジャーへの理解を深めて頂いたうえでレンジャー養成講座の受講を判断して頂けるよう、河川レンジャーの概要を説明する「プレゼンテーション（30分）」と河川レンジャーのやりがいや期待されることなどを討論する「パネルディスカッション（1時間）」の2部構成で実施しました。次年度は、レンジャー養成講座とレンジャー活動演習を通じて河川レンジャーを養成するとともに、1日当たりの受講時間を短縮するため、河川レンジャーの概要を説明する「プレゼンテーション（30分）」のみとします。

(2) レンジャー養成講座

河川レンジャーへの理解

今年度の「河川レンジャーのノウハウ」に替わる科目で、「レンジャー養成講座」と「河川レンジャーにチャレンジ」（レンジャー活動演習）のガイダンス的な科目とします。内容は、レンジャー養成講座の目的、レンジャー活動の紹介や具体的な進め方を説明するとともに、受講者とのディスカッションを行い、河川レンジャーへの理解を深めて頂くものとします。

水防とは

水防は、河川レンジャーにとって重要な知識と技術のひとつであるため、昨年度及び今年度を実施してきた講義に1時間の実習を加えた2時間とし、より充実した科目とします。実習は水防工法の体験学習とし、河川レンジャーの方にも講師補助を担って頂いて実施します。実施場所は、中央流域センターのある枚方出張所構内の駐車場を予定します。

河川のルールと利用マナー

昨年度及び今年度を実施した「河川利用のマナー」は、木津川開橋周辺の現地において、占用許可施設や不法・迷惑な河川利用を確認する屋外実習でした。この日の講座は、「河川の利用マナー」のほか、「淀川の自然」の実習、「水辺の安全」の講義・実習を行っており、1日当たりの受講時間が長く、内容的にも体力を要するものでした。次年度は、屋外実習が中心となる講座（2日目）について、受講者の負担を軽減するため、講義のみによっても対応が可能となる「河川利用のマナー」を「河川のルール」と併せて実施することとし、「河川のルールと利用マナー」として1時間30分の講義に変更します。

2．必修科目について

(1) 1年目必修科目

1年目の必修科目は、1年目に必修とせず、全ての受講生（30名）が2年目に受講し、次年度にその年の受講生と併せて最大60名の受講となった場合を想定して、大人数での実施が困難となる「淀川の自然」「水辺の安全」「活動計画づくりの基礎知識と実践」の3科目とします。

「活動計画づくりの基礎知識と実践」は、講座の最終日に実施することにします。これにより、講座の受講成果を活かした活動計画づくりが学習でき、活動経験の無い初心者でも理解しやすくなるものと考えられます。さらに、午前に実施することにより、午後の受講が困難な受講生に対して、昼休みを利用して、閉講式で行うレンジャー活動演習の説明を行うことが可能となります。

(2) 2年目必修科目

2年目の必修科目は、1年目に講座の受講を修了され、2年目に河川レンジャーの審査を希望される人を対象としています。このため、受講人数の制限を受けにくい講義のうち、再受講によって、河川レンジャーを目指して頂くうえでより理解を深めて頂きたい科目とし、アンケート結果から、講義内容への理解が低いものの、次年度も引き続いて実施した方が良い科目であるとの意見が多く得られた「河川のルール（と利用マナー）」に「これからの淀川」を加えた2科目を必修とします。

2年目の必修科目は、河川レンジャーの審査を希望される人が受講しやすいよう、講座最終日の午後に連続して実施することにします。また、これにより、引き続いて閉講式に出席して頂き、河川レンジャーの審査申請の説明を聞いて頂くことが可能となります。